

第1学年国語科学習指導案

指導学級 宮古市立千徳小学校

1年2組 男14名女16名計30名

指導者 稲垣 碧

指導場所 1年2組教室

研修テーマ 文章の大体をとらえることができる児童の育成

文章の大体をとらえる力は、要旨や要約をする力の基礎になるものと考え、本テーマを設定した。しかし、日常、児童は文章の内容を詳しく問うと直感的に答え、全体の感想を発表させると一部分にだけ目を向けることが多い。

これまでの単元「いろいろなくちばし」「じどう車くらべ」では、筆者が問いかけていることやその答えを見つけ、「どこに何が書かれているか」「誰が何をしたのか」「筆者は何を教えているのか」などの基本的な読み取りができるように指導をしてきた。

1 単元名 ちがいをかんがえてよもう「どうぶつの赤ちゃん」(光村図書 1年下)

2 単元について

(1) 児童について

本単元は、学習指導要領第1学年C「読むこと」内容①(1)イ「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと」を受けて設定した。児童はこれまで「いろいろなくちばし」と「じどう車くらべ」の説明文教材を学習している。これらの学習の中で問いと答えの対応や話題や問題提示を受けた説明という文章構成を学んだ。その結果、問いに対して答えを見つけることに慣れてきた。しかし、「いつ」「何が」「どうする」といった時系列を含んだ説明文は未習であり、文の順序に気をつけて読む意識は育っていない。また、文をとばして読んだり、一文字ずつ丁寧に読むことが苦手だったりしている。そこで、本教材を通して、事柄や時間の順序に気を付け、内容の大体を正しく読む経験を積む必要があると考える。

(2) 教材について

「どうぶつの赤ちゃん」という題名に、児童は興味・関心をもちやすく、楽しみながら読み進めることができると思われる。文章の構成を見ると、第一段落で二つの問題が示され、それに答える形でライオンとしまうまの説明が展開されている。説明は、生まれた時の姿の次に大きくなっていく様子という構成で書かれており、ライオンの説明の順序を生かして、しまうまの説明の読み取りをすることができると思う。

また、これまでの教材文では、問い、答え、説明という事柄の順序が明確であったのに対し、本教材はそれに加えて、動物の赤ちゃんが成長する過程で時間の順序を追って説明が進んでいくことが特徴的である。このことが、今まで「～は～だ」という読みから、「～は、どのようにしてどうなる」という順序を考えながら文章をとらえられるようになると思う。これらのことから本教材は、時間の順序を正確にとらえることで内容の大体をとらえることに効果的である。

(3) 指導について

文章の内容の大体をとらえて読む力を身に付けさせるために、「つかむ」段階では教材文への興味・関心を高めるとともに、第1段落に示された二つの問題提示文とその答えによって文章が成り立っている構成について押さえさせたい。

「たしかめる」段階では、問題提示文に答えるために読むということを確認、動物の赤ちゃんの特徴や成長の過程を事柄や時間の順序に沿って正しく読み取らせたい。また、ライオンとしまうまの赤ちゃんを比較しながら読み、特徴や成長の過程の違いに気付かせたい。

「ひろげる」段階では、「たしかめる」段階で学習したことをもとに、他の動物の赤ちゃんについても事柄や時間の順序に気を付けて文章を読んだり書いたりさせることによって、何はどのように大きくなるといった内容の大体を読み取る力を高めさせたい。

3 単元の目標

- (1) 動物の赤ちゃんに関心をもち、進んで読み取ろうとする。(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 動物の赤ちゃんについて書くのに必要な事柄を集め、説明の順序を考えながら、語と語や文と文の続き方に注意して書く。(書くこと)
- (3) ライオンとしまうまの赤ちゃんの特徴や違いを考えながら、赤ちゃんの成長の様子の大體を読み取ることができる。(読むこと)
- (4) 主語と述語の関係に注意して読むことができる。(言語についての知識・理解・技能)

4 単元指導計画

| 段階 | 時 | 学習内容 |
|-------|-----------------------|---|
| つかむ | 1 | ○動物の赤ちゃんについて知っていることや、動物と触れ合った経験などを発表する。 |
| | 2 | ○全文を読み、初めて知って驚いたことや、おもしろいと思ったことを発表する。 ○二つの問題提示文について確かめる。 |
| たしかめる | 3 4 (本時) | ○ライオンの赤ちゃんの生まれたばかりの様子と大きくなる様子について読みとる。 |
| | 5 6 | ○しまうまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子と大きくなる様子について読み取る。 |
| | 7 | ○ライオンとしまうまの赤ちゃんの違いを確かめる。 |
| ひろげる | 8 | ○他の動物の赤ちゃんについての本を読み、好きな動物の赤ちゃん |
| | 9 | について調べる。 |
| | 10 | ○順序に気をつけて動物の赤ちゃんを紹介する文章を書く。 |
| | 11 | ○作った文章を発表する。 |

5 本時の指導

(1) 目標

ライオンの赤ちゃんとお母さんがなぜ似ていないのかを、生まれた時の様子と成長の様子から読みとることができる。(読むこと)

(2) 本時の目標を達成するための手立て

ライオンの赤ちゃんの生まれた時の様子を確認し、その様子が具体的にどうなっているかを問う発問、ライオンの赤ちゃんの成長の様子がどう移り変わっていったのかを問う発問をする。

(3) 展 開 (太字ゴシック体は手立てにかかわる部分)

| 段階 | 学習活動 (○発問・指示) | 指導上の留意点 |
|-----------|---|---|
| 導入 5分 | 1 課題把握 なぜ、ライオンの赤ちゃんとお母さんはあまりにいていないのだろう。 | ・挿絵を見ながら、ライオンのお母さんと赤ちゃんが似ているかどうか話し合う。 |
| 展開 35分 | 2 P59L1～8 を読み取る ○ライオンはどうぶつの何と云われていますか。 3 P59L9～P60L3 を読み取る。 ○ライオンの赤ちゃんは、自分では何ができないのですか。 4 P60L4～P61L3 を読み取る ・「いつ」がわかる言葉に気をつけて読みましょう。 ○「いつ」がわかる言葉はどれですか。 ○「二か月くらい」と「一年ぐくらい」の間は何をしていますか。 ○えものの取り方を覚えて、すぐに上手にえものをとることができるのですか。 5 まとめ ○見た目・歩き方・えさの食べ方がお母さんと似ていないのはどうしてでしょう。 | ・ライオンのお母さんと赤ちゃんを対比し、見た目が似ていないことをとらえさせる。 ・「口にくわえてはこぶ」様子を優しく噛んで他の場所に運ぶことと、とらえさせる。 ・板書で、四つの時期とえさに関わる行動を対応させ、成長の順序をとらえさせる。 ・えさの取り方を覚えるのはすぐなのかを考えさせ、「そして」に隠されている狩りがうまくいかないことを想像させる。 ・ライオンの赤ちゃんがやっと自分一人で生きていくことができるようになることがわかる文を視写させる。 ・少しずつ、それでも確実に大人になっていくことを自分と重ねてとらえさせる。 ・ライオンの赤ちゃんはお母さんに助けられながら大きくなっていくということを、板書にある時間の流れに沿って考え、音読をさせる。 |
| 終末 5分 | 6 振り返り ○なぜライオンの赤ちゃんとお母さんが似ていないのか、わ | ・ライオンの成長の様子という視点で感想を発表させる。 |

| | | |
|----------|---------------------------------|---|
| 終末 5分 | かったこと、思ったことを発表しましょう。 7 次時の予告 | ・次は、しまうまの赤ちゃんを学習することを知らせ、ライオンとの違いは何かという視点を示す。 |
|----------|---------------------------------|---|

(4) 具体の評価規準

| 観点 | 十分満足できる | おおむね満足できる | 努力を要する児童への支援 |
|------|--|--|---|
| 読むこと | ライオンの赤ちゃんの見た目がお母さんとどう違うかをとらえ、移動の仕方やえさの食べ方など母親の力を借りて成長していくことについて感想を話している。 | ライオンの赤ちゃんの見た目がお母さんとどう違うのかということと、移動の仕方とえさの食べ方など母親の力を借りて成長していくことをとらえている。 | ライオンの赤ちゃんの見た目、移動の仕方、えさに関わる行動がお母さんとどう関係しているかをとらえさせる。 |

(5) 板書計画

